

令和八年度春季入学春季募集
熊本県立大学大学院 文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程
社会人特別選抜試験問題 専門科目 解答例

❶ スラッシュで区切ったものは、いずれも可

問一 無用の者／必要のない者／人から求められない者

問二 あづまのかたにすむべきくにもとめにとてゆきけり

問三 三河国／参河国

愛知県

問四 川が蜘蛛の手足のように八方に流れていて、橋を八つかけているために「やつはし」と称される

問五 E 流

F 類

問六 伊勢物語

❷ ① 〈解答のポイント〉

訓合式ローマ字とヘボン式ローマ字で表記が異なる具体例（例えば、*is.* と *sh.*）を提示しつつ、その理由を体系的に説明したり、現代においてパスポートは原則としてヘボン式が用いられるなどの使用のされ方の違いに言及したりするなどできていることが望ましい。

② 〈解答のポイント〉

かなの成立に始まり、それ以降ある時期までは日本文学において中国大陸からの影響は無視することができないため、所謂古典分野から一つ以上の事例を、また近代以降は西洋からの影響が同じく抜きがたい要素としてあるので、その分野から一つ以上の事例をそれぞれ挙げて述べられていることが望ましい。以下のような内容を抑えつつ適切な術語を用いて論述されていること。

❸ ③ 〈解答のポイント〉

(一) 日本語に関する厚い記述を有するものとしては、一六世紀末から一七世紀初頭にかけて成立したキリシタン資料、一七世紀以降に成立した『捷解新語』等の朝鮮資料、一九世紀後半に成立した『和英語林集成』（初版・再版・三版）等が想定される。

(二) 右の中から具体的な書名を示した上で、イ文献が作成された目的、ロ日本語に関する分析とその記載様式、ハロによってもたらされた日本語史研究上の知見、の三点を、正確な資料性の理解に基づいて説明しているかを評価する。

④ 〈解答例〉

過去に消失した文献を、引用文等を基に復元した輯佚書は、基づいた資料が限られていることから不十分な復元でしかあり得ない。そこに、現存資料から確認できること以上の憶測を挟むことは厳に慎まなければならない。同時に、「引用文」は引用者がオリジナルから正確に引用しているとは限らないので、輯佚書の使用に際しては、その点にも注意する必要がある。

⑤ 〈解答のポイント〉

談義本発生の背景となる、享保期の都市文化の成熟や、庶民教化奨励、出版機構の整備といった享保改革などに触れつつ、その刺激を受けた文壇に現れた主知的な文学『艶道通鑑』（増穂残口著、正徳五年刊）・『田舎荘子』（佚斎樗山著、享保十二年刊）や、狭義の談義本の祖とされる、静観房好阿著『当世下手談義』（宝暦二年刊）といった具体的な作品・作者に言及し、その内容や特色について述べることができているか。また、徐々に思想性が後退して滑稽を中心とする方向に展開して滑稽本につながることを、徹底した現実描写や主知的な側面が江戸戯作（洒落本・滑稽本）に受け継がれること、知識性が初期読本へと展開することなどが的確に述べられているか。

⑥ 〈解答のポイント〉

近代になって誕生し、文学の成立や発展とも大きく関わるメディアとしての新聞や雑誌のこと、あるいは書籍としての流通が作家や作品の傾向に与えた影響などを踏まえて述べられていることなどを求める。

⑦ 〈解答例〉

物語文学における和歌には、二人でやり取りされる贈答歌、三人以上で詠み交わす唱和歌、一人で自らの思いを述べる独詠歌があり、この三首は、唱和歌に該当する。唱和歌は、人が集まったときに詠まれ、その場と思いを共有する。三首は、紫の上が亡くなる直前に、夫である光源氏と養女の明石の中宮と歌を詠み交わした場面のもので、「露」をキーワードとしている。(i)は、紫の上が、萩の上のはかない露に、自らの消えゆく命を重ねる歌。(ii)は、光源氏が、(i)の紫の上の思いを汲み取りつつ、露の意味を、世のことわりにおけるはかない命として用い、先立つようなことはないようにという切実な思いを訴える。(iii)は、そうした二人のやりとりを受けて、露に、人の世における運命という意味を持たせて、誰しもがはかないものだ、と紫の上を慰める。同じ「露」を詠み込みながら、少しずつおのおのの思いが異なる。そして、全体としては、死を哀しむ、というまとまりができている。優れた唱和歌の一例である。

⑧ 〈解答のポイント〉

音声では、アクセントやイントネーションの機能によって区切りを間違いくいという点について、適切な術語を用いてわかりやすい説明ができていること。

⑨ 〈解答のポイント〉

迷惑な気持ちを表したい場合や動作主に言及したくない場合など、それらの一つ以上に
ついて、例文を示しながらわかりやすく説明できること。

⑩ 〈解答のポイント〉

お伽草子（室町物語）を、それ以外の「物語」との関係・対比から把握し、その特徴・
性格を理解できているか。型通りの作品名を並べるのではなく、人の想像力の産物たる物
語の広がりを押さえつつ、その中でお伽草子を説明できるか。例えば、王朝物語との対比
から、その主題や読者層という観点からお伽草子を説明することもできるし、同じ観点で、
後に成立する仮名草子との対比も可能であろう。また、「物語」を広く解釈し、お伽草子と
同時代的に共存していた、舞曲や謡曲との関係からも述べることはあろうし、民話との関
係からという切り口もあり得る。